

石金精機ベトナム進出

海外初生産拠点10月に稼働

機械部品加工の石金精機(富山市流杉、清水克洋社長は、ベトナムに生産拠点を設ける。同社としては海外で初めての生産拠点となり、工作機械や半導体製造装置などの部品を加工。品質と価格の両面で東南アジアのニーズに対応した部品を製造し、タイやインドネシアで販売を拡大する。

新たな生産拠点は、ベトナム・ハノイ中心部から東へ約30キロにあるフイエン省の工業団地内で、レンタル工場の一角(延べ840平方メートル)を賃借する。旋盤やマシニングセンタなどの設備を導入し、10月から稼働する。投資額は1億円。現地には関連会社として「IPTベトナム」を設立する。

ベトナムに生産拠点を設けることで、東南アジアのニーズに対応した部品を製造。タイやインドネシアへの輸送コストや人件費を抑えて、価格競争力を高めることもでき、新たな受注の獲得が見込めるという。売上高全体のうち海外の販売比率は現在3%となっており、将来的には10%まで引き上げる。

ベトナム進出は10年前から計画し、人材育成を進めてきた。本社工場で2人のベトナム人を正社員で雇用し、加工技術を指導。外国人技能実習生としてもベトナム人を受け入れている。新たな生産拠点では、本社工場で技術を習得

した6人のベトナム人が働かせる。さらに現地で2人を雇用し、8人体制で稼働する。3日、本社で記者会見した清水社長は「これまでに身に付けた技術を生かし、高品質の製品を生産し、受注の獲得を目指す」と語った。会見では、創業以来初めて作った社歌も発表。ミュージシャンの高原兄さんが作詞・作曲し、黒部市ゆかりの歌手のTomomiさんが歌を担当した。

北日本新聞
2018年4月4日



石金精機の生産拠点が入るベトナムのレンタル工場